

対談『勝山の繊維産業のルーツとは』

東京・関西勝山会から 他



勝山の産業界の草分け「勝山製糸株式会社」

市史編纂室嘱託 山田雄造

三ノ丸の地名はご存知の方も多いと思いますが、勝山製糸会社という名前は、かなり年配の方でもご存じないのではないのでしょうか。その前身は明治七年（一八七四）に袋田町岸ノ下に創設された製糸工場でした。既に二年前に松村コト・神谷ミツの二人の女性を、製糸工女伝習生として富岡に派遣し、準備を進めていました。今年、世界遺産に登録された富岡製糸工場と既にこの頃から関係があったのです。

機業が勝山の基幹産業になる以前、勝山の産業を支えていたのは刻み煙草と生糸でした。なかでも生糸は日本が近代化を進めるうえで、外貨獲得に最も貢献しました。明治十五年の日本の輸出の四十三％は生糸で、昭和十年（一九三五）頃まで第一位を占め、勝山の生糸もその一翼を担っていました。

その勝山を代表する会社が勝山製糸会社で、創設に向け中心となって活動したのが齋藤遊絲さいとうゆうし・七代小林平三郎、その弟の十代齋藤治兵衛です。治兵衛は富岡など群馬県の製糸工場を視察し、一方、養父の遊絲、平三郎等は町民から出資を募り、株式会社設立準備を進めます。

こうして福井県で初めての株式会社、明治九年に旧城跡の三ノ丸で開業します。粗悪と言われた勝山産生糸ですが改良が重ねられた結果、同一年には海外に十五年には本場のフランスにまで輸出されるようになります。資本金も三万円となり名実ともに福井県を代表する会社に成長します。この間、表舞台で活躍したのが先の人物だとすると、裏方として技術面から会社を支えたのが大工の和田與平と、汽缶製造に当たった梶與右衛門です。與平は機械の製作と工場の建設に、與右衛門は県内初の蒸気缶製作に当たりました。

その結果、福井・大野を始め県外からも多くの工場経営者が視察に訪れ、勝山製糸会社は全国に名を知られるようになります。ところが明治十九年の勝山町大火で大きな打撃を受け、その後単独経営の時期が続きました。しかし明治から大正の交、一本義の経営者一代久保仁吉が「三ノ丸製糸株式会社」と改称して経営を受け継ぎ、さらにその弟與三兵衛が後を引き継ぎました。

明治末から大正を経て昭和初期には勝山の機業は福井県の先頭を走るようになります。勝山製糸会社はその魁となったといえます。その種を蒔いたのは林毛川で、種は成器堂（後の成器小学校）で開花し先に紹介した人物が育ちます。しかし発展を陰で支えていたのが女工さんであったことも忘れてはなりません。

勝山の繊維産業の

ルーツとは

富岡製糸場との関わりはあったのか？

【出席者】

勝山市市史編纂室

山田 雄造

勝山市商工観光部商工振興課

はたや記念館振興グループ

主任 松村 英之

ふるさとルネッサンス委員会

委員長 丸屋 仁志

委員 荒井由泰・笠川小末

森本陽子・阿部光郎

四谷由起夫

(順不同・敬称略)

荒井：今年六月、「富岡製糸場と絹産業遺産群」が世界遺産に登録されました。この富岡製糸場に、明治時代、勝山市から二人の女工が伝習生として派遣されたと言ひ伝えられています。今、世界的に関心を集めている富岡製糸場。富岡と勝山の関係を探りながら、勝山市の産業の原点を見つめます。今回、勝山市の製糸業についての新たな史料を発見された、勝山市市史編纂室の山田雄造先生にお話を伺います。



ふるさとルネッサンス委員会 委員長 荒井 由泰

丸屋：今年七月に『勝山製糸会社に命をかけた男たち』斎藤遊絲と美濃屋四兄弟』を出版さ

れたんですよ。この本の出版に携わってこられた経緯をお聞かせいただいで、勝山の製糸業、繊維産業について勉強させていただきたいと思います。先生、よろしくお願ひします。



ふるさとルネッサンス委員会 委員長 丸屋 仁志

山田：いろいろなことに興味を持っています。前に城下絵図の本を出したので、勝山市の本町辺りのことを、過去から現在、どのように繋がっていくのかということ調べてたかったんです。明治二十九年の大火で勝山の町は焼けるんですけれども、それなりに町屋に古い史料が残っているんじゃないのかなと思ってたんですね。いろいろお宅を尋ねて行ったこともあります。そんな中、製糸会社に関する史料が残っている可能性がある。「みのや茶舗」さんに古文書がないか尋ねて行ったんです。そしたら、ありますよって出されたのが、「勝山製糸会社履歴」という史料だったんです。これが勝山製糸会社創設に関わる新しく発見した史料です。この史料とは別に、「勝山製糸会社記録」という史料がも

ともあり、この史料は大野郡史にも載っていますし、また、『越前人物史』という越前国の過去に実績を残した人のことを書いた本にも載っていますので、以前から存在は知っていました。しかし、今回「勝山製糸会社履歴」を発見し、「勝山製糸会社記録」は内容が大きくカットされているということがわかったんですね。「勝山製糸会社履歴」を読んでいくと、ところどころが、朱で抹消してあったり、一行欠と書いてあったりするんです。「勝山製糸会社記録」と突き合わせてみますと、「勝山製糸会社履歴」は、「勝山製糸会社履歴」をカットしたものであるとわかってきたんです。そのカットされていた部分に、新しく発見したこと、非常に興味深いことがいっぱい書いてあったんですね。例えば、「勝山製糸会社記録」には無かった記録ですが、最初、勝山製糸会社を設立するとき、福井の町と合同で設立するような計画があったんです。ところが、どうも勝山がその話を蹴ってしまったようです。福井の町の人たちは武士が中心で、武士は商売の才覚が無く、とにかく政府からお金をもらって会社を立ち上げようという考え方があったようです。そういうところを商人から見ると絶対に駄目だということで、合同で設立する話を蹴ってしまったと書いてあるんです。

「勝山製糸会社記録」も「勝山製糸会社履歴」も明治二十六年くらいまでのことしか書いてないんです。その後がわからないんです。後まで続いたっていうことはわかっているんですけども、明治二十九年の大火でわからなくなりました。たぶん、明治二十九年から後は松井四右衛門さんという方が勝山製糸会社を引き継いだというところまではわかっています。その後のことはわからなかったんです。ところが、たまたま福井県立図書館に行きまして、一本義さんの『酒づくり一〇〇年』という本がありまして、そこに勝山製糸会社が出てくるんです。これは大変なことが書いてあると思ひまして、早速、勝山商工会議所を通じて、一本義の社長さんにこの本の元になった史料は何かと聞いてもらって、それを見せてもらったんです。そしたら、その製糸会社は松井四右衛門から一本義の二代目久保仁吉さんが引き継いだということがわかってきたんです。ただ久保仁吉さんは酒造りに専念するようになって、その後、弟さんの久保三兵衛さんが引き継いだ。久保三兵衛さんも、どうやら製糸会社ではやっていけないということで、機屋に変わって、現代の久保機業場へつながっていくことがわかってきたんですね。本当に偶然が重なってこういう資料が見つかったんです。それがこの本を出版した経緯ですね。あと、明治時代に富岡製糸場に伝習生として派遣された女工さん、松村トコさんと神谷ミツさんについて、何かもう少し資料がないかということで調べたんですが、出てこないですね。「みのや茶舗」さんの家にあっ

た古文書を全部借りてきたんです。そしたら香典帳の中に、それは明治十何年とか二十何年とかの香典帳なんですけど、そこにちょっと名前が出てくるのを見つけて、この時代にも働いていたんだなとわかってきたんです。明治五年に多分、富岡に行ってきたと思います。



勝山市市史編纂室 山田 雄造

荒井：しかし、富岡製糸場の記録の中には出てこないんですよ。山田：出てこないんです。荒井：福井から派遣された人というのは、全く史料に出てこないから、本当たったのかなと思ひますが、二人の女工さんが富岡に行ったことは確かかなようですよ。山田：フランス人ブリエーナという人が富岡製糸場をつくるんですが、その元で技術を学んだと書いてありますから、ほぼ間違いないんじゃないかなと思ひます。森本：山田先生の本を読みますと、最初はいいものが作れなくて、それで字びに行つたと書いてあるじゃないですか。ということは、もともと勝山には製糸業があったんですよ。荒井：手で繭から糸をとっていたんですよ。江戸時代から伝統的に手で作っていたんですけど、やはり品質にばらつきがあったんです。江戸時代は煙草生産と製糸業が平行してあって、その後には織物業が発展してきたという歴史的な背景があります。笠川：商人の人たちがお金を出し

合って会社を作ったということに、びっくりしましたよね。それだけ商人の力があつたということですよ。富岡製糸場は国がつくったところですからね。勝山ではそれを商人がつくったということに価値があると思います。

丸屋：はじめは反対もあつたと言いますけどね。だんだん応援しようという気分になってきて、それも勝山人の気質ではないでしょうか。

阿部：なぜ勝山で製糸業が始められたのですか。



ふるさとルネッサンス委員会 委員 阿部 光郎

山田：江戸時代、勝山で一番の産業だったのは煙草だったと思うんですね。製糸は福井県のどこでもやってたと思います。しかし煙草は国内だけでしか売れないですよ。生糸は世界的な製品ですから外国に売れるわけですね。だから製糸業を始めたいと思います。

阿部：そういう点で、勝山の人は先を読んでいたということでしょうか。

山田：横浜が開港されて、とにかく世界が市場になってくるんですね。しかし、品質が悪かった。国内では何とか売れても、外国では、フランス産のものには太刀打ちできませんから、どうしても品質改良しなくてはならない。

丸屋：蚕の改良もするようになって品質が良くなっていく。

荒井：農家に無償で蚕種を分けて

生産してもらおうというところもあつたんですよね。

山田：蚕さんは、勝山ではある時期しか生産できなかったの、フルシーズン通じて生産できるように改良しなければならなかった。

勝山の人が偉いのは、蚕さんの改良もやっていますし、伝習所、今でいう学校を作って、女工さんの技術を上げる、そういったこともやっていますね。大野からも福井からも見学に来ていますし、奈良や岡山から見学に来るくらいにすごい工場だったということですね。信州から教師としてやってきた二人の女工さんが途中で亡くなつてしまつたという悲しい出来事もありました。

笠川：江戸時代からの流れをくんでいるところが結構あるというのがすごいですよね。一本義にしたって、今も続いていますし、名前の聞いたおうちが結構あるんですよ。美濃屋（現在の「みのや茶舗」）さんにしても、松屋さんにしても。一〇〇年前の話が、今でも続いている。



ふるさとルネッサンス委員会 委員 笠川 小末

森本：一本義の久保さんも、今は酒屋さんですけど、昔は製糸業をやっていたんですね。

山田：勝山に何軒か酒屋さんがあつて、一番美味しい酒を売り出している笠松津兵衛さんという人が、大正に入ってから、外に出てしまふんです。出たときに、おそろく久保仁吉さ

んとどこかで出会って、一本義の商標を受け継いだんだと思います。一本義さんは煙草もやつてましたし、製糸もやつてましたから、全国を歩いているんですね。もちろん横浜も行っていただしようし。そういった中で笠松津兵衛さんに出会つたんですよ。

森本：久保仁吉さんで、豪胆な人だったんだなつて思います。明治二十九年に全部燃えて私財を無くしてしまつたのに、借金してまた始めたんですね。すごいですね。

山田：明治の勝山の商人は、凄まじいエネルギーを持っていたと思います。

勝山だけではないかもしれませんが、特に勝山の場合は、武士が明治十年くらいまでにほとんど外に出てしまふんです。だから商人たちががんばらざるを得なかつたと思うんです。



荒井：農業をするにしても土地が狭いですから。

あと、煙草ですね。うちでも先代は煙草をやつていて、刻み煙草の製造販売をやつていた。煙草が勝山で非常に盛んだつたのは、江戸時代の殖産興業的な形で奨励したところから始まつたんですね。

山田：もともと勝山の煙草というのは、「越前国名蹟考」にも出てきますが、特に上高島の辺りの煙草の品質が福井県のナンバー1というように書かれています。勝山町の近辺の荒土とか猪野瀬とか、いい煙草を作っていたんですね。それを勝山町に持つてきて刻む。

勝山の産業の原点は煙草と製糸ですね。

荒井：農家も巻き込んで、煙草も製糸も製造から販売まで一貫してやっていきたいと思います。

動き手として女性のパワーもあつた。繊維というのは、女性の力を必要とする産業です。

山田：勝山の町を担つてきたのは女性だと思っています。

それから、煙草と製糸に目を付けたのは林毛川という人なんです。それと平行して成器堂をつくつていけるわけですね。今回紹介した商人たちはほとんどここで学んだ人たちです。

笠川：商人もそこで学んだんですね。武士だけじゃなかつたんですね。

山田：成器堂は一般の人たちも学べたんです。武士だけではないんです。そういったことを今、*勝山城博物館で「幕末・維新かつやまの人づくり」教育と産業の歩み」として展示している

んですよ。

*勝山城博物館・勝山市連携第二回共催展として十二月七日まで勝山城博物館にて開催中

荒井：我々の近代化の原点はこういうところにあるということ、市民は知る必要があると思う。原点をしっかりと把握しないと未来は見えないじゃないですか。

山田：勝山の人は林毛川を知らないうけにないと思いますよ。

森本：成器堂は藩校なのに、民間の人にも教えられたんですね。



ふるさとルネッサンス委員会 委員 森本 陽子

山田：民間からたくさん寄付金を集めて成器堂ができるからですね。

荒井：古文書を読んで、この本を執筆されて、一番印象的なことや強く感じたことは何ですか。

山田：ひとつは機屋の時代の少し前は、煙草産業、製糸業というものも盛んだつたということを知つて欲しい。特に煙草に関しては全然調べていません。その資料を集めること、せめて今残っている煙草の乾燥場を何とか保存することをやってほしい。今残っているものも徐々に取り壊されてしまふから。ひとつふたつは残してほしい。

荒土には結構残っています。二十力所くらいは残っていると思います。ほとんど改良を加えられていて完全な形ではないですが、中には二つ三つ完全な形で残っています。それは是非とも残しておくべきだと思います。

もうひとつは、勝山の商人はこれだけエネルギーがあつたん



東京勝山会総会の開催日を変更しました

今年4月に行われた幹事会にて、例年11月11日の夜6時開催としておりました総会を今年より10月中旬の土曜日か日曜日かの昼に開催する事にしました。

年々の参加者の減少をいかに食い止めるかの一案として変更をする事としました。

参加者の高齢化や若年層の平日参加が困難ではないかと言う事や土曜日や日曜日に開催する事により、在郷の方々や近郊の方、関西方面の方の参加も可能になるのではないかと思います。

花の東京銀座にて開催します、今年は10月18日土曜日の開催です。参加希望の方は10月10日までに事務局まで連絡して下さい。

東京勝山会の幹事の方々も高齢化しましたが、まだ歩こう会やゴルフコンペを開催しています。盛況の頃の写真を見て下さい、最近はこの半分くらいの参加者です。

此れへの参加希望の方も事務局まで連絡して下さい、担当幹事に繋がります。

東京勝山会 事務局 山岸 紘 憲
TEL:090-5520-7352



勝山での思い出

関西勝山会 副会長 田村 幸代

祝 勝山市政60周年にあたり記念式典に出席させて頂きました。越前太鼓の廻し打ちに老若男女で子供達が大人に負けない様頑張っていて、とても感動致しました。音が会場内全員を包み込み爽快でした。

私も白山連峰を背に勝山を出まして60年共に歩いて来ました。私の成長と故郷は想い出の宝箱で一杯です。長山公園は町民の憩いの広場でした。春はお花見、夏は盆踊り、秋は運動会・紅葉、冬はスキー等、池に噴水が高く上り、鯉・フナ・金魚等泳いで良い庭でした。今回お祭り帰りに60年ぶりに長山に行ってみたらすっかり変わって枯山水になって一軒茶屋も無くなり、奥にグランドがある様でした。遊具あり、ブランコあり、家族の散歩でいつも人がいました。子供の幸せを感じている次第です。

河岸の桜並木は青春のポエムがあり、九頭竜川は水が多く、水泳リレー・横断もしました。橋を渡り乍らダムですっかり変わってしまった昔を思い出し、昔はいろいろな遊びで楽しかった友達が走馬灯の様に出て来ました。

市長様、職員の方々も現代的に努力なされ駅内に

コーヒーマシンの香りがただよい安らぎます。変わらない町並みにも明るさ住みやすくきれいな町、交通便利な町になりつつ有るので感謝致して居ります。故郷勝山をいつまでも愛しています。今昔物語になり、恐縮です。

関西勝山会総会のお知らせ

開催日 平成26年11月9日(日) 午前11時より

場所 太閤園(大阪市都島区網島町9-10)

※参加希望の方は10月30日までに事務局まで連絡して下さい。

問合せ先 関西勝山会事務局(大阪市中央区南船場1-7-8-403号)

高井会計事務所内

高井 征夫 (☎:06-6261-2006)



勝山特産 こだわり逸品

迎春便
白山麓、北谷町の低温で発酵してゆく「鯖の熟れ鮓」と「おぼの煮たもの」を詰め合わせました。懐かしい味で新年をお迎えください。



※容器は付いていません。

セット内容 申込締切 平成26年12月12日(金)

鯖の熟れ鮓(半身切り身)
おぼの煮たもの詰め合わせ
とば餅(えごま・黒豆) 各5個 税込・送料込 3,500円

勝山組曲
限定



勝山水菜
三月中旬の花が咲く少し前が旬の甘みののつた水菜の季節です。茎もやわらかいです。

申込締切 平成27年1月30日(金)
税込・送料別
1束300円(注文は2束から)+送料500円

秋の便
青大豆は、「大豆畑のエメラルド」とも呼ばれ、ビタミンCも多く、風邪の予防にも最適です。平泉寺で採れた青大豆、古代米、北谷町の雑穀そして美味しい里芋で実りの秋をお楽しみ下さい。



秋の便を注文の方限定!
平泉寺御膳レシピ付き

※写真はイメージです。

セット内容 申込締切 平成26年11月7日(金)

勝山産こしひかり 3kg 古代米入り青豆ごはんセット
里芋(土つき) 1kg ・青大豆 250g
北谷雑穀シリーズ ・黒米 100g
・イナキビ 100g ・あまご甘露煮 1尾
・タカキビ 100g 税込・送料込 5,000円

販売者・お問合せ先

勝山市民活動ネットワーク内「勝山組曲」

TEL 0779-87-1011

〒911-0811 福井県勝山市片瀬町1-402

勝山組曲 公式ネットショップ

URL: <http://kkumikyoku.shop-pro.jp/>

「かつやま」を「食」で奏でる



勝山組曲 検索
※勝山市から委託を受けて実施しています。

ふるさと納税制度で、あなたもぜひ勝山市に応援を!!

このふるさと納税制度は、ふるさとを応援したいという方々の想いを実現するため、地方公共団体に対する寄付金の額に応じ、所得税と個人住民税が軽減されるものです。また、寄付先は、出身地に限らず自由に選べ、好きな地域を応援できます。

ふるさと納税による寄付金は税制上の優遇措置が受けられます。

- 勝山市へ寄付していただいた金額が個人住民税と所得税から控除されます。
- 控除される税額の算出方法は以下のとおりです。

① 所得税の控除額 (年間寄付金額の合計 - 2,000円) × 所得税率

② 個人住民税の控除額 下記のア+イの合計額

ア (年間寄付金額の合計 - 2,000円) × 10%

※年間寄付金額の合計は総所得金額の30%が上限です。

イ (年間寄付金額の合計 - 2,000円) × (90% - 所得税率)

※イの控除額の上限は、個人住民税所得割額の10%が上限です。

※詳しくは、下記またはお住まいの市区町村住民税担当課までお問い合わせください。

※税額控除を受けるには、確定申告または住民税の申告が必要です。

寄付のお申込方法

勝山市へご寄付をいただける方は、下記連絡先(勝山市役所未来創造課)までご連絡をお願いいたします。折り返し郵便振替用紙を送付させていただきますので必要事項をご記入の上、お近くの郵便局よりお振込みください。

詳しくは、<http://www.city.katsuyama.fukui.jp/> の、「ふるさと納税」をご覧ください。

ふるさと納税者への特産品送付事業を行っています

いつも勝山市に対し、ふるさと納税による応援をいただきありがとうございます。ふるさと納税による御寄付をいただいた場合には、平成26年4月より、金額に応じて勝山市の食の特産品を詰め合わせた『勝山組曲』をお送りしています。

※ 10,000円以上20,000円未満の場合…

『勝山組曲』1便 (5,000円相当)

※ 20,000円以上の場合…

『勝山組曲』2便 (10,000円相当)

※『勝山組曲』の送付はその時の旬の特産物を詰め合わせでお送りするため、ふるさと納税をいただいてからお送りするまでお時間がかかる場合がございます。何卒御了承くださいますようお願いいたします。

ふるさとルネッサンス委員

委員長	丸屋 仁志	委員	笠川 小末	//	阿部 光郎
副委員長	本田 高士	//	笠松 捷多朗	//	四谷 由起夫
委員	荒井 由泰	//	森本 陽子		(順不同・敬称略)

発行/ふるさとルネッサンス委員会 (事務局) 勝山市企画財政部未来創造課
〒911-8501 福井県勝山市元町1丁目1-1 TEL.0779-88-1115 FAX.0779-88-1119
e-mail: rune@city.katsuyama.lg.jp 勝山市ホームページ: <http://www.city.katsuyama.fukui.jp>

ゆっくいのんびい観光にきませんか?

